

りんごの品種選択と更新時の注意

長野県園芸試験場長 後 沢 憲 志

最近、りんごばかりでなく、ほかのくだもの類も豊富に出廻るようになってきたので、従来のように、りんごであればどんなものでもよいという時代はとうに過ぎた。そして、品質のよいもの、うまいものへと、消費の動きも大きく変わりつつある。だから、これからは、今まで通りの品種でよいということは言えなくなってもきたし、作り方もある程度変えなければならぬ情勢になってきた。

そこで、将来はどんな品種がよいか、また品種を変えるにはどんな注意が必要か、そのようなことについて、若干意見を述べてみようと思う。

従来品種についての見直し

(1) 祝について

祝の出廻る頃には、最近、ももとかぶどう、メロンなど、甘味のあるくだものが出廻るので、この品種もとかく押されぎみになった。だから、東北の北部より以北の地方では、この品種を作るにしても、地場消費程度の規模におさえる必要があると思うし、栽培面積の多い福島地方でも、その割合を大幅に減らす必要がある。また、長野の標高の高い地帯でも同様に考えてよい。

(2) 旭について

旭も、祝と同じに考えてよいだろう。とくに、長野、群馬等の暖地産紅玉と市場でかち合うような旭の産地では、味の点では旭は紅玉にたちうちできないから、この品種も今後ますます圧迫されるだろうし、思いついて、ほかの品種に切り換えることがよいと思う。

ただ、北海道では、この品種独特の優秀な品質のものがとれ、しかも一―二月頃まで貯蔵販売できる利点があるので、北海道では、かなり残されてよいと思う。しかし、長野の高標高地帯で、かりに北海道的な気象条件をもっているところであっても、近接産地の紅玉とかスターキング、その他のくだもの類に押されるから、その栽培には期待がもてない。

(3) 紅玉について

暖地産の紅玉は、寒地ものにくらべると、酸味が少なく、甘味が高い。このことが消費者に知れわたると、九月中旬から十月一杯は、長野、群馬、福島、山形産のものが高評を博し、その期間は暖地産のものによって占有されるようになるだろう。一方、東北北部以北とか、長野の高標高地帯の紅玉は、その時期以降に真価を発揮するよう

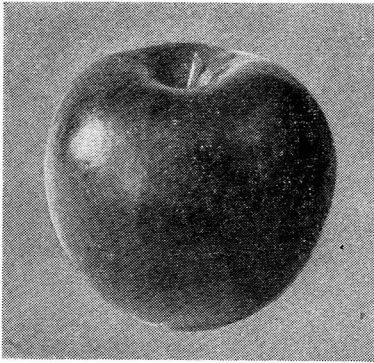
春の出荷を待つ健苗木



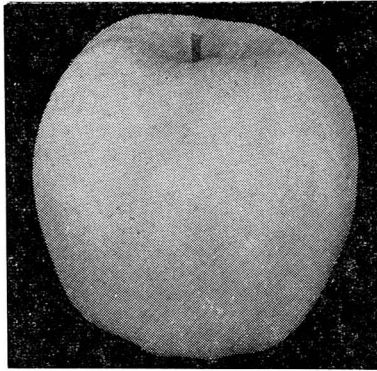
になると思うが、その時期になれば、デリシャス系統とか、ゴールデンデリシャスとの競合が考えられるので、今までの栽培割合をかなり低めてゆく必要があるように思う。

(4) デリシャス系統について

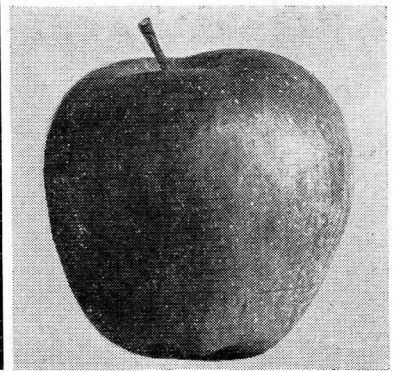
スターキングなどのデリシャス系統で、長野、福島系の低暖地帯のものは、九月下旬から十月上旬に完熟し、風味もきわめて優秀である。だが、いかなるボケ易い。それだけ出荷期間が短いので、その面積にもおのずから限界があるというものである。ところが、東北北部から、北海道にかけて、また、それらの地方に見合う長野の高標高地帯では、むしろ、紅玉を減らし



レッドゴールド



ゴールデンデリシャス



スターキング

てその代りに、デリシャス系統を増すことが必要だと思ふ。

とにかく、デリシャス系統は、ゴールデンデリシャスとともに、消費需要の高い品種であるので、地方によっては今後大幅に伸びるであらう。

(5) ゴールデンデリシャスについて

ゴールデンデリシャスも、デリシャス系統と同様、暖地ではボケ易い。だから、北海道とか、東北北部にくらべて、長野の低暖地、福島、山形地方の暖い処では、その割合を高めることは好ましくない。だが、この品種は、デリシャス系統よりも、幾分暖い地方に適地があるから、北海道では当然限界がある筈だし、長野でも標高一、〇〇〇以上では無理のようである。とにかく、この品目はサビが出易く、現地では袋掛を止めるわけにはいかない。だから、消費要求度が高いからといって、デリシャス系統のように大幅増殖をするわけにはいかない。

(6) 印度について

この品種は貯蔵力はあるしそれに独とくの芳香と、甘味をもっているのので、一部には根強い人気をもっている。しかし、斑点落葉病に弱のが欠陥であり、低暖地帯での栽培に苦勞が多い。

このようなことから考えて、長野では標高六〇〇—八〇〇m 貯地帯が中心になるだろうし、東北では北の地方が主力産地となつてゆくものと思ふ。

(7) 国光について

この品種は、長野の低暖地帯で始めて完

熟し、その真価がでる。このようなことから考えて、この品種の本当の適地は、長野福島地方、それに山形、岩手の南の一部にあるとみてよいから、本来ならその辺がこの品種の中心産地となるべきだったと思ふ。ところが、現実には、青森でのこの品種の割合は五〇%以上にもなるし、北海道でさえ一〇%の割合を占めるといふ状態である。しかし、今後は、温度不足のため未熟で終る北海道は全廃すべきだし、完熟できない青森をはじめ、東北地方では、その割合を大幅に減らし、その代りに、ふじとかスターキングなど、将来性のある品種へ切り換える必要があるように思ふ。

新品種についての見直し

(1) レッドゴールドについて

この品種は戦後輸入され、当初は大部分ではやされたが、ボケ易い欠点のため、次第にその姿を消していった。しかし、北海道のような冷涼な気候のところでは、かなりの貯蔵力もあり、しかも、芳香と甘味の強い品種だけに、最近再び見なおされ、注目を浴びるようになった。北海道はもちろんのこと、東北の寒い処、また長野では、標高一、〇〇〇m 前後のところにおいて、その地方の紅玉の出廻る前、あるいはその初期の頃をねらう地場消費的品種としては面白いと思ふ。

(2) 王鈴について

この品種はサビが出にくいので無袋栽培ができるとか、ゴールデンデリシャスよりも幾分甘味が強く、しかも貯蔵力があると

(参考表) りんごの主要道県別面積割合 (昭和38年)

全	国	果樹園面積 (ha)	品種別面積構成比					全国を100とした県別の比率						
			早生種		高級種		その他		早生種		高級種		その他	
			紅	玉	国光	高級種	その他	紅	玉	国光	高級種	その他		
全	国	40,800	9	29	39	21	1	100	100	100	100	100	100	
主要道県名	北海道	3,310	22	19	33	18	8	8	19	5	7	7	58	
	北青森	16,000	5	27	55	13	0	39	21	37	54	24	8	
	岩手	3,820	7	47	20	24	2	9	8	16	5	17	15	
	秋田	2,320	8	16	47	28	1	6	5	3	7	7	5	
	山形	2,400	7	53	15	24	1	6	4	11	2	7	3	
	福島	1,940	32	12	4	51	1	5	16	2	1	11	3	
長野	10,300	9	28	38	25	0	25	24	25	24	30	7		

(備考) 早生種は祝、旭など、高級種はデリシャス系、ゴールデンデリシャス、印度等を示す。

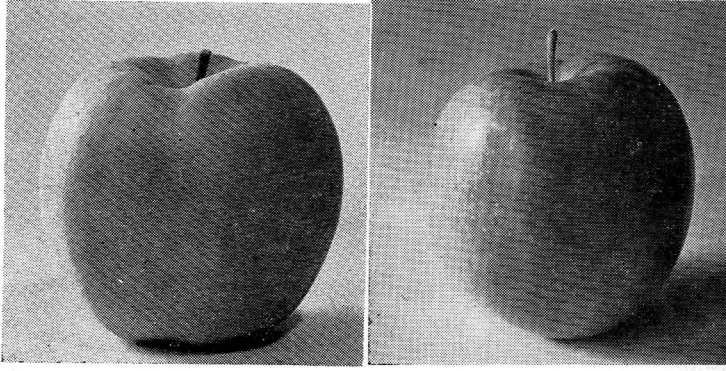


ふじ

いうことなどから、ゴールデンの代替品種になりうるものとみなされ、一時はなかりの新植をみた。しかし、その後斑点落葉病に弱いということで、全く顧みられない状態に陥ったが、最近新農業の開発によってこの病気も簡単に防げるようになったので、再び注目されるようになった。とにかく、おいしいりんごだということで、このりんごに対する要望も多いし、今後品種の一つとしてとりあげてよいと思う。

(3) **むつについて**

むつはゴールデンデリシャスよりも貯蔵力があり、サビの出にくい品種だし、北海道地方ではその優秀性が認められてかなり増植をみているようである。ただ、長野



むつ めぐみ

の低地方では、玉が大きくなりすぎるきらいがあるが、標高九〇〇—一、〇〇〇附近の地帯では、玉の大きさも手頃になるから、この地帯では、ゴールデンデリシャスの代替品種として、ある程度とり入れられる可能性をもっている。とにかく、東北、北海道また暖地の高い地方で栽培するには面白い品種だと思ふ。

(4) **ふじについて**

ふじの欠点としては着色の悪いことだが、この品種は甘味が比較的高く、国光よりもはるかに貯蔵力がすぐれ、汁液の多い品質のきわめて優秀な品種だけに、今後大幅な躍進が期待される。おそらくは、長野の低暖地帯から、青森辺まで場合によって

は北海道南部まで、長期貯蔵できるこの品種によって、国光や、祝、旭などのかなりの部分がおき変えられるようになると思ふ。

(5) **その他の品種について**

その他の新品種として、「めぐみ」は風害落果が少なく、玉のび、着色がよいことなどから、青森地方の山手方面に新植されているようだが、暖地では、果実にジュナランスポットが出易いので、大きくは期待できそうもない。

東北三号は旭の次に成熟期に達し、無袋でもよく着色するから、暖い地方での旭の代替品種にでも一時は考えられた。だが、酸味が若干強いきらいがあるし、その頃はまたりんご以外のくだもの類におされる懸念もあり、特殊栽培ならいざ知らず、大栽培には不向とみてよい。その他、めばしい新品種としては、東光などが話題にのぼっているが、まだ検討の余地があると思ふ。

(6) **新しい枝変り系統について**

紅玉の枝変り系統としては、着色の状態からみて西谷、武田系統等が秀れているようである。

一方デリシャス系統では、レッドキングレッドトップ等の着色がすぐれていると言われている。なお最近では、レッドスパークとカウイルスパークというようなスパークタイプ(短果枝着生の多い系統)の系統が話題になり、注目されてきたが、今後のデリシャス系は、おそらく、このような系統のものが伸びるようになると思ふ。

また、ゴールデンデリシャスにも、スパ

ークタイプのものが見出されており、これ等も検討されたのちとりあげられるようになると思ふ。

品種更新上の注意

品種を更新するには、既存の樹を掘り取り、そのあと地に新植するか、樹列間へ間樹する方法もある。これらの方法だと、収量を急減したり、更新し終るまでは長年月を要するというような不利益が伴う。

ところが、高接だと、やり方さえうまくやれば、収量もさほど落さずに、比較的短期間に更新できるので、現状では、最も現実的な方法だと言えらると思ふ。

ただし、老令樹の場合、将来性を考えると、高接更新よりも、間樹とか、掘取あと地への新植の方が有利なことが多いと思ふ。

それから高接更新の場合、最もおそろしいことは高接病を起すことである。これを防ぐのに、最も安全な方法は、高接病の病毒をもっていない樹の穂木を使うことである。現在では各県の試験場において、主要な品種を検定して、無毒の樹を見出し利用するので、それ等の樹からとった穂木を利用するように心掛けることである。

なお、りんごには高接病のほか、サビ果病とか、モザイク病、奇形果病などのウイルス病があるから、折角の高接によって感染を起し、元も子もなくするようなことのないよう、穂木をとる際には、母樹について十分な観察と注意を払う必要がある。

(長野県園芸試験場長・農博)